

施設の規模・機能について

陸上競技場に係る主な施設基準

国民体育大会施設基準【(公財)日本体育協会】

競 技	基 準	備 考
総合開・閉会式	<ul style="list-style-type: none"> ・ 式典会場は、観覧席が仮設スタンドを含み、約3万人を収容できる施設 ・ 屋外の式典会場の場合は、雨天対策用として体育館1 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 式典規模は、(公財)日本体育協会と協議の上、決定
陸上競技	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本陸上競技連盟公認の第1種競技場1 (摘要：1周400mのサブトラック1、投てき練習場1) 	

公認陸上競技場および長距離競走路ならびに競歩路規程【(公財)日本陸上競技連盟】

区 分	第1種公認基準	総合運動公園陸上競技場（第1種公認B）の現状と課題	
		現 状	課 題
走 路	400m×8レーン又は9レーン 全天候舗装	400m×9レーン 全天候舗装	
収 容 人 員	15,000人以上（芝生席を含む。） 少なくともメインスタンドは7,000人程度で屋根付	24,000人程度 （芝生席を含む。）	
補助競技場	第3種公認陸上競技場 （全天候舗装400mトラック）	第4種公認陸上競技場 （シンダー舗装300mトラック）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第1種公認基準に適合していない。 （今後の公認更新が課題）
夜間照明設備	1m220の高さで平均照度1,000ルクス程度 フィニッシュラインは1,500ルクス以上を確保	フィニッシュラインのみ 照明有り	<ul style="list-style-type: none"> ・ 夜間照明設備がないため、ナイターでの競技会やトレーニングができない。
電光掲示板	電光掲示板を設置することが望ましい。 大規模競技会の会場では、仮設でもよい。	なし	<ul style="list-style-type: none"> ・ 電光掲示板がないため、大規模大会の開催時に支障がある。

※ その他課題：施設（エレベーター、トイレなど）のバリアフリー化が十分でない など

サッカー場に係る主な施設基準

区 分	スタジアム標準 【(公財)日本サッカー協会】	2012Jリーグ試合実施要項 【(公社)日本プロサッカーリーグ】	Jリーグクラブライセンス交付規則 【(公社)日本プロサッカーリーグ】	《参考》 栃木県グリーンスタジアム
入場可能数	クラスS 40,000人以上 クラス1 20,000～40,000人 クラス2 15,000～20,000人 クラス3 5,000～15,000人 クラス4 ～ 5,000人	必 J 1 15,000人以上 J 2 10,000人以上	A J 1 15,000人以上 J 2 10,000人以上	15,589人
観客席数		必 椅子席で10,000席以上 望 全席個席		固定席10,639人 立見席 4,950人
観客席屋根		必 できるだけ多く覆う 望 すべてを覆う	B 1/3以上を覆う C すべてを覆う	メインスタンド中央部
照 明		必 照度1,500ルクス以上		照度1,500ルクス以上
ト イ レ		望 洋 式 5台/1,000人 小便器 8台/1,000人	B 洋 式 5台/1,000人 小便器 8台/1,000人	洋 式 2.6台/1,000人 小便器 3.7台/1,000人

※ スタジアム標準における主なクラス別対象試合

クラスS:日本代表(A)公式試合 クラス1:J1 クラス2:J2 クラス3:JFL クラス4:地域リーグ決勝大会

※ 2012Jリーグ試合実施要項凡例

必:必ず具備しなければならない条件 望:具備することが望ましい条件(将来的に「必」とされる可能性が高い。)

※ Jリーグクラブライセンス凡例

A:必須要件 B:必須要件(クラブライセンスの交付拒絶事由ではないが、制裁有り) C:推奨要件

陸上競技場・サッカー場に求められる規模・機能

陸上競技場

- 「国民体育大会施設基準」を考慮
- 第1種公認陸上競技場基準に適合
(雨天走路、用器具庫等の諸室・設備を含む。)
- 夜間照明設備、電光掲示板、監視カメラ等の設置
- 投てき場の整備
- ユニバーサルデザインの採用
(車椅子利用者席、多目的トイレ、エレベーターの設置等)

補助競技場

- 第3種公認陸上競技場を整備

サッカー場（陸上競技場との兼用を含む。）

- 「スタジアム標準」を考慮
- 「Jリーグ試合実施要項」を考慮
- 「Jリーグクラブライセンス交付規則」を考慮
- ユニバーサルデザインの採用
(車椅子利用者席、多目的トイレ、エレベーターの設置等)

【参考】国民体育大会における総合開閉会式・陸上競技会場の規模・機能

開催年 開催都県	平成20年 大分県	平成21年 新潟県	平成22年 千葉県	平成23年 山口県	平成24年 岐阜県	
会 場	名称 【公認】	大分スポーツ公園 大分銀行ドーム 【第1種】	東北電力 ビッグスワンスタジアム 【第1種】	総合スポーツセンター 陸上競技場 【第1種】	維新百年記念公園 陸上競技場 【第1種】	岐阜メモリアルセンター 長良川競技場 【第1種】
	所有者	大分県	新潟県	千葉県	山口県	岐阜県
	収容人員	約40,000人	約42,300人	約30,000人	約20,000人	約29,000人
摘要	大分トリニータ ホームスタジアム	アルビレックス新潟 ホームスタジアム	開会式は、千葉マリン スタジアムで開催		F C岐阜 ホームスタジアム	

開催年 開催都県	平成25年 東京都	平成26年 長崎県	平成27年 和歌山県	平成28年 岩手県	平成29年 愛媛県	
会 場	名称 【公認】	味の素スタジアム 【第1種】	総合運動公園 新陸上競技場(仮称) 【施設整備中】	紀三井寺公園 陸上競技場 【第1種】	北上総合運動公園 陸上競技場 【第1種】	総合運動公園 ニンジニアスタジアム 【第1種】
	所有者	東京都	長崎県	和歌山県	北上市	愛媛県
	収容人員	約50,000人	約20,000人	約19,000人 (座席改修後)	約22,000人	約21,000人 (座席改修後)
摘要	FC東京・東京ヴェルディ ホームスタジアム				F C愛媛 ホームスタジアム	

【参考】2012年Jリーグクラブホームスタジアムの規模等

区 分	収容人員別スタジアム数	2011年Jリーグ戦 平均入場者数
Jリーグディビジョン1 【18クラブ24施設】	～15,000人：0施設 15,000人～20,000人：7施設 20,000人～40,000人：8施設 40,000人以上：9施設	約15,797人/試合
	平均収容人員約31,795人	
Jリーグディビジョン2 【22クラブ22施設】	10,000人～15,000人：7施設 15,000人～20,000人：8施設 20,000人～40,000人：5施設 40,000人以上0施設：2施設	約6,423人/試合
	平均収容人員約19,133人	
総 計 【40クラブ46施設】	10,000人～15,000人：7施設 15,000人～20,000人：15施設 20,000人～40,000人：13施設 40,000人以上0施設：11施設	—
	平均収容人員約25,739人	

※ ホームスタジアムの重複有り

(平成24年9月30日現在) 5

体育館（武道場及び弓道場を含む。）に係る施設基準

競技種目	国民体育大会施設基準		栃木県体育館の現状と課題		
	競技面数等	観客席数	競技面数	観客席数	課題
バスケットボール	<ul style="list-style-type: none"> ・規定（28m×15m）の屋内コート10面 ・近接であれば、2会場地以上に分かれてもよい。 	規定なし	2面 【体育館】	1,920席 【固定席】	<ul style="list-style-type: none"> ・サブアリーナがなく、大規模な大会の開催に支障がある。
バレーボール	<ul style="list-style-type: none"> ・規定（18m×9m）の屋内コート8面 ・2会場地以上に分かれてもよい。 ・体育館の天井の高さは、10m以上が望ましいが、7m以上あればよい。 	規定なし			
柔 道	<ul style="list-style-type: none"> ・規定（9.1m×9.1m）の競技場3面を有する柔道場又は体育館1 ・試合会場に隣接した練習場1（150畳程度） 	規定なし	4面 【武道館】	400席 【固定席】	<ul style="list-style-type: none"> ・サブの柔道場や剣道場がなく、大規模な大会の開催に支障がある。 ・観客席が不足しているため、大規模な大会の開催に支障がある。
剣 道	<ul style="list-style-type: none"> ・規定（9m×9m又は11m×11m）の競技場2面を有する剣道場又は体育館1 	規定なし			
弓 道	<ul style="list-style-type: none"> ・規定（射距離28m）の弓道場1 ・遠的（射距離60m）競技場1（仮設でもよい。） 	規定なし	近的8人立 遠的6人立 【弓道場】	—	<ul style="list-style-type: none"> ・観客席がなく、大規模な大会の開催に支障がある。

※ その他課題：施設のバリアフリーが十分でない、冷暖房設備がない、更衣室や用器具庫等のスペースが不足している など

(注) 体育館は、バスケットボール及びバレーボールを抽出して記載

各競技団体所定の規則等には、大規模大会等の開催に要する競技面数などの規定はない。

Vリーグ（バレーボール）においては、上記のコートの規格の外、収容人員3,500人以上などの基準がある。

体育館に求められる規模・機能

体 育 館

- 適正な競技面数・観客席数の確保
- サブアリーナの確保
- 冷暖房設備の設置
- 電光掲示板の設置
- 更衣室・用器具庫等の適正なスペースの確保
- ユニバーサルデザインの採用
(車椅子利用者席、多目的トイレ、エレベーターの設置等)
- その他想定される機能
 - トレーニング室・体力測定室
 - 軽運動などができる多目的スタジオ
 - 幼児体育室

など

武 道 場

- 適正な競技面数・観客席数の確保
- サブ武道場の確保
- 冷暖房設備の設置
- 更衣室・用器具庫等の適正なスペースの確保
- ユニバーサルデザインの採用
(車椅子利用者席、多目的トイレ、エレベーターの設置等)

弓 道 場

- 適正な競技射場数・観客席数の確保
- 更衣室・用器具庫等の適正なスペースの確保
- ユニバーサルデザインの採用
(車椅子利用者席、多目的トイレの設置等)

【参考】近年整備された都道府県立体育館の規模・機能

区 分		静 岡 県 エコパアリーナ	青 森 県 マエダアリーナ	埼 玉 県 彩の国くまがやドーム	岡 山 県 桃太郎アリーナ	石 川 県 いしかわ 総合スポーツセンター
開 場 年		平成13年	平成15年	平成15年	平成17年	平成20年
メ イ ン ア リ ー ナ	競技面数	バスケットボール4面 バレーボール4面	バスケットボール4面 バレーボール3面	バスケットボール3面 バレーボール4面	バスケットボール4面 バレーボール4面	バスケットボール4面 バレーボール4面
	観客席数	6,308席	5,348席	2,503席	5,084席	5,019席
サ ブ ア リ ー ナ	競技面数	バスケットボール2面 バレーボール2面	バスケットボール2面 バレーボール3面	—	バスケットボール1面 バレーボール1面	バスケットボール2面 バレーボール2面
	観客席数	294席	—	—	—	982席
プロ・トップリーグの 主な開催実績		・bjリーグ (バスケットボール)	・JBL (バスケットボール)		・Vリーグ (バレーボール)	・Vリーグ (バレーボール)

※ 上記体育館の規模・機能等は、バスケットボール・バレーボールを抽出して記載

【参考】近年整備された都道府県立武道館の規模・機能

区 分		静岡県武道館	埼玉県立武道館	愛媛県武道館	秋田県立武道館	山口県立下関武道館
開 場 年		平成14年	平成15年	平成15年	平成16年	平成23年
主 武 道 場	競技面数	柔道・剣道 兼用 6 面	柔道 6 面 剣道 8 面 (兼用)	柔道・剣道 兼用 8 面	柔道・剣道 兼用 8 面	柔道・剣道 兼用 6 面
	観客席数	2,040席	1,510席	2,932席	2,517席	1,036席
副武道場 競技面数		柔道専用 2 面 剣道専用 2 面	柔道専用 3 面 剣道専用 3 面	柔道専用 3 面 剣道専用 3 面	柔道専用 3 面 剣道専用 3 面	柔道専用 2 面 剣道専用 2 面
弓 道 場	競技面数	近的12人立	近的12人立 遠的10人立	—	近的12人立 遠的 6 人立	近的12人立
	観客席数	105席	101席	—	84席	116席

※ 主武道場及び副武道場の競技面数は、柔道・剣道を抽出して記載